

明星

<http://www.kameyama.mie.jp/kblog/shirakawa/>

亀山市立白川小学校 第11号

令和7年9月17日(文責:西川)

「であい、ふれあい、そして未来へ」 ~自分を発揮し 求め続ける白川っ子の育成~

第1回みえスタディ・チェックの結果より

今回は、4年生と5年生を対象に実施された「令和7年度 第1回 みえスタディ・チェック」の結果をお知らせします。「みえスタディ・チェック」は、三重県が独自に行っている「児童生徒が自らの学習内容の定着状況を確認し、目標を持って主体的に学習に取り組む意欲を育む」ためのテストです。1人1台端末を使用したオンラインでの回答と、紙面への記述回答とを併せた形式で行われました。

本校の結果とその分析は、以下の通りです。



教科に関する調査の結果より

教科の平均正答率

		国語	算数	理科
5年	本校	46.7	39.6	37.1
	三重県	55.2	55.8	55.1
4年	本校	55.0	61.4	X
	三重県	58.7	60.9	

5年生は国語・算数・理科の3教科で、4年生は国語・算数の2教科で学力テストが行われました。本校の各教科の平均正答率は、左の表の通りでした。

4年生は県平均に近い結果でしたが、5年生は、残念ながら全ての教科で県の平均を大きく下回りました。「みえスタディ・チェック」は前年度までの学習範囲から出題されますが、5年生は学習内容の定着ができていないと言わざるをえません。各教科の結果を領域別にもう少し詳しく見てみましょう。

各教科の領域別の平均正答率

国語		知識技能	話す聞く	書く	読む
5年	本校	57.4	41.7	29.2	8.3
	三重県	63.4	43.5	35.1	36.1
4年	本校	52.5	58.3	12.5	56.3
	三重県	61.6	57.0	27.9	53.9

国語では、4・5年生の「話す・聞く」領域と4年生の「読む」領域においては、県平均と大きな差はありませんが、その他の領域では県平均を下回りました。特に、4年生は「書く」領域の、5年生は「読む」領域の正答率が低いです。ただ、どちらの学年も問題文の条件にあわせて回答する力

に課題が見られました。例えば4年生「書く」領域の設問では「5(二)【話し合いの一部】で出た、折り紙の良いところを全て取り上げ、話し合いで出た意見をまとめる」問題で、問題文に「折り紙の良いところをすべて」と書かれているにもかかわらず、部分的にしか取り上げずに答えている人が多かったです。5年生の「読む」領域の設問でも「7(二)声に出して読むときの工夫とその理由を書く」問題で、とのさまの「もうよい。わしの負けじゃ。」

という言葉をおあなたならどのように声に出して読みますかを問われ、条件として「声に出して読むときにくふうすることを書くこと。例えば、声の大きさや高さ、読む速さなど。」「なぜそのように読むのかという理由を書くこと。理由には、あなたが想像したとのさまの気持ちを取り上げること。」「40字以上80字以内にまとめて書くこと。」の3つが示されているのにも関わらず、「読み方」か「とのさまの気持ち」のどちらかしか書いておらずに間違えている人が多かったです。また、「知識・技能」の領域では4・5年生ともに、漢字の書き取り(4年「きかん」を「期間」、「ついて」を「着いて」、5年「かんしん」を「関心」に書き直す)や読み(5年「筆順」を「ひつじゅん」に書き直す)、送り仮名(5年「まったく」を漢字で書いたときの送り仮名として正しいものを選ぶ)に関する設問で、県平均を下回っていました。習った当時にはできていたはずの漢字の読み書きや送り仮名が正しく書けないのは、復習不足と言わざるをえません。

これらのことから、国語における本校の子どもたちの課題として、「漢字の読み書きの定着不足」「複数の条件に合うように自分の考えを文章にまとめる力の不足」があげられます。

算数		数と計算	図形	変化と関係	データの活用
5年	本校	45.2	33.3	25.0	44.4
	三重県	59.6	49.2	61.1	52.2
4年	本校	50.0	75.0	75.0	75.0
	三重県	64.6	57.8	61.1	52.6

算数では、4年生は「数と計算」以外の領域では県平均を上回りましたが、5年生はすべての領域で県平均を下回る結果でした。どちらの学年とも「数と計算」の領域では、基本的な

計算(4年生「 23×38 」「6は2の何倍か」を求める、5年生「 $6.79 - 0.8$ 」を求めるなど)でのミスが目立ちました。また、「整数の除法の意味を理解しているか」をみる問題(4年生「 $12 \div 3$ の式で求められる問題をすべて選択する」、5年生「 $1.5 \div 3$ の式で求められる問題をすべて選択する」)でも誤答が多く、文章のみから判断していて計算式を立てて考えていない様子がみうけられました。

5年生の「変化と関係」の領域では、日常生活と関連の深い問題が2問出題されていました。うち一つは「日常生活の中で必要となる時間を求めることができるかどうか」をみる設問で、以下のような問題でした。

⑧ なおきさんは、午前10時45分に家を出発して、同じ日の午後1時30分におじさんの家に着きました。家を出発してからおじさんの家に着くまでに、何時間何分かかりましたか。

答えは2時間45分ですね。昨年度も同じ問題が出題されて正答率が低かったのですが、今年も正答率がとても低かったです。頭の中に時計を思い浮かべながら考えることが、うまくできていないのかもしれませんが、日常生活の場面の中でも、時間がどれだけかかるか・かかったかを求める機会が多いと思いますので、時間の計算にもっと慣れる必要がありますね。

5年生の「図形」の領域では、長方形を組み合わせた図形(右図)の面積の求め方に関する問題が出題されました。問題(1)では、ゆうたさんが図形を長方形ABHFと長方形EHCDに分け、二つの長方形を積み重ねて面積を求めようとしたときの数式について問われています。

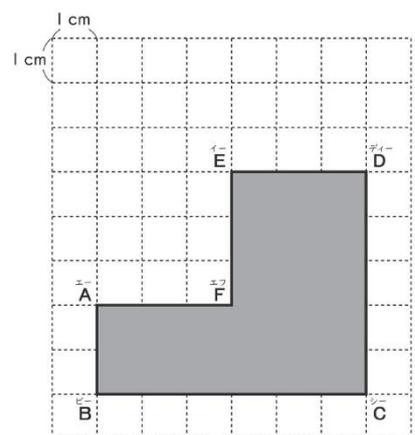
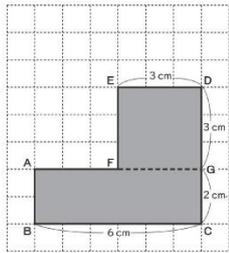


図1

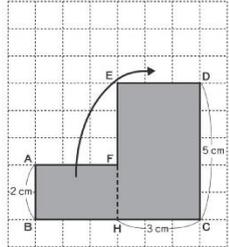
(1) けいたさんとゆうたさんは、図1の形の面積が何cm²になるかを考えています。



正方形EFGDと
長方形ABCGの2つの
四角形に分けて考えたよ。
 $3 \times 3 + 2 \times 6 = 21$
答え 21cm²



長方形ABHFを
長方形EHCDの上に
動かして、1つの長方形
AHCFにして考えたよ。
() $\times 3 = 21$
答え 21cm²



ゆうたさんの考えの () にあてはまる式を答えましょう。

(2) あやかさんは、図1の形の面積について、けいたさんやゆうたさんとは別の求め方で考えました。



わたしは、ほかの求め方を考えました。

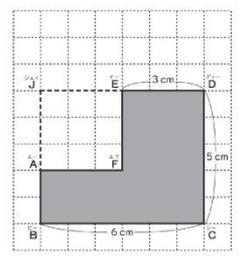
【あやかさんの求め方】

$$5 \times 6 = 30$$

$$3 \times 3 = 9$$

$$30 - 9 = 21$$

答え 21cm²



【あやかさんの求め方】の中の「30-9」は、どのようなことを表していますか。「30」と「9」がどのような図形の面積を表しているのかがわかるようにして、けいたさんたちの考えと同じように、言葉と数、AからJまでの記号を使って書きましょう。

「ゆうたさんの考えの () にあてはまる式を答えましょう。」と問題文にあるため、ここでは積み重ねた図形の高さ「5+2」または「2+5」を答えるのですが、子どもたちの半数は「7」と足し算の答えを書いてしまっていました。問題文をよく読んで、何を答えとして求められているのかを読み取る必要があります。また、問題(2)では、【あやかさんの求め方】の「30-9」がどのようなことを表しているかを説明することが求められています。「30」と「9」がどのような図形の面積を表しているのかがわかるようにとあるので、例えば「30は長方形JBCDの面積を、9は正方形JAFEの面積を表しています。そして、30-9は長方形JBCDの面積から正方形JAFEの面積を引くことを表しています。」のように書けばよいのですが、子どもたちの解答を見ると、大きい四角形から小さい四角形の面積を引いていることには気づいていても、それを文章で書き表すことが難しい様子でした。

これらのことから、算数における本校の子どもたちの課題として、「基本的な計算や用語の定着不足」「問題として示された場面を、図や絵で適切にイメージして、立式する経験の不足」「自分の考えを適切に文章に表す力の不足」があげられます。適用問題や発展問題をたくさん解いて、問題を読み取る・既習内容を活用する・自分の考えを式で表したり文章にまとめたりするといった経験を積み重ねることが必要です。

理科		エネルギー	生命	地球	粒子
5年	本校	41.7	41.7	25.0	40.0
	三重県	60.3	60.2	47.0	54.2

理科は5年生のみで行われましたが、全ての領域で県平均正答率を下回りました。全22問のうち16問で県平均に届

かず、学力が定着しているとは言えない状況です。理科の設問では、単純に用語を答える問題はほとんど出題されていません。問題の文章や示された図表の中から回答に必要なポイントを見つけ出し、これまでに学習した内容と結びつけて考える必要があります。単なる知識だけではなく、「問題の意図を読み取る力」「文章や図表から回答に必要な要素を見つけ出す力」「発問の意図や条件に従って答えを導き出す力」といった、科学的なものの見方や考え方がどれだけ身につけているかが問われているのです。

例えば、今回の結果で最も県平均正答率との差が大きかった問題は、「エネルギー」の領域の6(2)の問題で、以下のような問題でした。

6

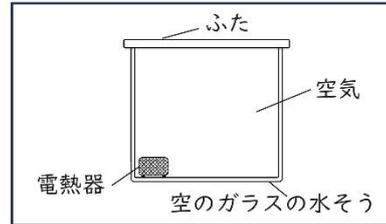


みさきさん

【実験1】で、水のあたたまり方がわかったね。
次は、空気のアたたまり方について、みんなで予想してみよう。

(2) みさきさんたちは、水のあたたまり方を参考にして、図2のように調べたときの、空気のアたたまり方を予想しました。

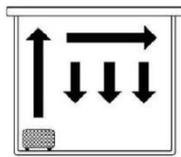
図2



【4人の予想】

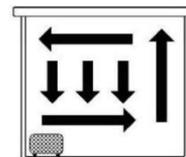
【みさきさん】

あたためられた空気が上に動いて、上から順にあたたまらんじやないかな。



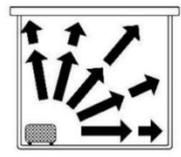
【たけしさん】

あたためられた空気が横に動いてから上に動き、上から順にあたたまらんじやないかな。



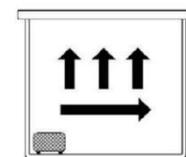
【あきらさん】

熱せられたところから順に熱が伝わって、空気があたたまるんじやないかな。



【まなみさん】

あたためられた空気が横に動いて、下から順にあたたまらんじやないかな。

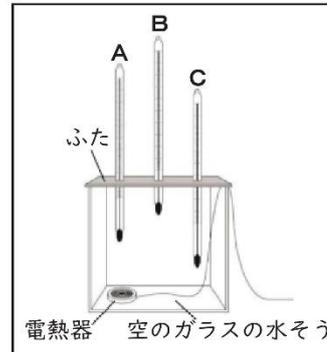


みさきさんたちは、それぞれの予想が正しいかどうかを調べるために、ふたをした空の水そうの中に電熱器を置き、3本の温度計を入れて、下の方法で実験を行いました。

【実験2】

- 図3のように空の水そうにA、B、Cの3本の温度計を入れ、あたためる。
- あたため始めてから2分ごとの空気の温度を、しばらくの間観察する。

図3



たけしさんの予想が正しければ、どの温度計から順に温度が高くなっていきますか。温度計の温度が高くなるのが早い順が、たけしさんの予想に当てはまるものを下のアからエまでの中から1つ選びましょう。

ア C→B→A イ C→A→B ウ B→C→A エ B→A→C

この問題では、「予想が一致した場合に得られる結果を見通して、実験を構想することができるかどうか」をみています。「たけしさんの予想が正しければ、どの温度計から順に温度が高くなっていきますか。」と問題文にあるので、空気のアたたまり方に関する【4人の予想】の中の【たけしさん】の予想が、実際には間違っていますが「正しい」と仮定して考えなくてははいけません。【たけしさん】の予想の矢印のようにあたためられた空気が動くすると、電熱器であたためられた空気が横に動いて温度計Cの温度がまず上がり、次にあたためられた空気が上に動いて温度計Bの温度が上がり、そして上から順にあたたかい空気が下にさがってきて温度計Aの温度が上がるので、答えは「ア」となります。

これらのことから、理科における本校の子どもたちの課題として、「既習内容の復習不足」と「問題を正しく読み取り、条件に合わせて回答する経験の不足」が考えられます。

学習や生活等に関する質問の結果より

「みえスタディ・チェック」でも、子どもたちの生活や学習の様子などをアンケート形式で問う調査が行われました。以下に4・5年生全体の結果を示し、特徴をまとめてみました。

- ※ 数値は、各質問に「当てはまる・している」「どちらかといえば、当てはまる・している」と回答した割合の合計(%)です。
- ※ 「本校」の値は白川小4・5年生全体の平均値、「三重県」の値は4年生の県平均と5年生の県平均との間をとった参考値です。

【基本的生活習慣等に関すること】

質問項目	本校	三重県
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	78.6	78.5
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	100	88.4
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれだけの時間、テレビゲーム(スマホ等を使ったゲームも含む)をしますか *3時間以上の回答	35.7	33.0
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれだけの時間、携帯やスマホでSNSや動画視聴等をしますか(学習・ゲームを除く) *3時間以上の回答	21.4	22.3

子どもたちは、毎日、同じくらいの時刻に起きることができていますが、夜寝る時間がやや不規則のようです。規則正しい生活を心がけましょう。また、平日1日当たりのテレビゲームの時間や動画視聴の時間を3時間以上と回答した児童の割合が、ともに昨年度よりも増加しています。なかには4時間以上と回答した児童も複数おり、家庭でのゲームやスマホの利用についてあらためて見直す必要があります。

【自己有用感、達成感、挑戦心、地域や社会への関心等に関すること】

質問項目	本校	三重県
自分には、よいところがあると思いますか	64.3	83.6
将来の夢や目標を持っていますか	57.1	88.0
難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか	92.9	82.8
学校に行くのは楽しいと思いますか	78.6	84.2
今住んでいる地域の行事に参加していますか	92.6	73.1
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	71.4	78.3

難しいことでも失敗を恐れずに挑戦している児童、地域行事へ参加している児童の割合がともに9割を超えており、前向きにチャレンジし様々な経験を重ねようとする意欲が見られます。一方で、自分にはよいところがあると思う児童、将来の夢や目標のある児童の割合が県平均を大きく下回っています。自分に自信が持てないので、夢や目標を持ちにくいのかもかもしれません。誰もが良いところと悪いところを併せ持っているものです。自分の良いところをもっと評価しても良いのではないのでしょうか？

【学習習慣、学習環境等に関すること】

質問項目	本校	三重県
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)	78.6	69.2
学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれだけの時間、勉強をしますか *1時間以上の回答	42.9	43.4
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれだけの時間、勉強をしますか *1時間以上の回答	35.7	41.6
学校の授業以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれだけの時間、読書をしますか。 *30分以上の回答	35.7	35.7

以前より三重県では、学習時間や読書時間が全国平均に比べて少ないことが課題になっています。しかも県全体の今年の学習時間・読書時間の質問結果は、昨年度よりもさらに悪化をしています。そして本校の結果は、その県平均と同程度かまたは下回っています。特に休日の学習時間が少なく、なかには「全くしない」と回答した児童も複数いました。

【基本的生活習慣に関すること】であげたように、ゲームやスマホ利用（SNS・動画視聴など）の時間を減らし、学習時間や読書時間を増やしていく必要があります。

今後の取組について(まとめ)

各教科の調査結果から見てきた本校児童の課題から、「既習内容の復習による基礎・基本の定着」「練習問題をたくさん解いて、問題の内容・意図を正しく読み取り、学習した内容を活用して条件にあわせて回答する経験を積むこと」に取り組む必要があります。

学校では、朝の短時間学習や授業の一部などを利用してA Iドリル（キュービナ）に取り組んで既習内容の復習を行ったり、練習問題にたくさん取り組んだりする活動を増やしたりして課題改善に取り組めます。しかし、覚えたことは時間がたてば少しずつ忘れていってしまいます。復習を繰り返しながら、覚えたことを活用してアウトプットすることで学力は定着していくものです。ゲームやスマホで遊ぶことは楽しいですが、勉強や読書をおろそかにすることで結局困るのは子ども自身です。子どもたちのためにも、キュービナ等を活用した家庭学習(自主学習を含む)や読書の習慣づけに、保護者の皆さまからの声かけ・応援をよろしくお願いします。

